

関東学院大学

専門家による個別対応や各種イベント・ツールで学生を支援

インターシシップ参加を促し、
学生の就業意識を高める

関東学院大学は1884年に創設された横浜バプテスト神学校を源流に持つ11学部14学科5研究科からなる総合大学です。現在は約1万1000人の学生が「横浜・金沢八景キャンパス」と2023年4月に開校した「横浜・関内キャンパス」で学んでいます。また、同大学では実践的な学びを展開し、その代表的な取り組みに地域や企業と連携した「社会連携教育」があります。そしてもうひとつ同大学の特徴に挙げられるのがキャリア教育の充実です。1年次から全学共通のキャリアデザイン科目を開講し、自分自身を知ることや将来の生き方を考える機会を設けています。こうしたキャリアに対する意識づけを行った上で、3年次からは就職



就職支援センター長
野中 康生 氏



面談風景

活動に必要な力を身につけるためのさまざまな就職支援プログラムを実施しています。

「就職ガイダンスや企業の選び方、情報収集の仕方などを学ぶための各種講座とともに、近年、力を注いでいるのがインターシシップです。インターシシップは企業活動や仕事を知る絶好の機会ですから、本学でも学生に対して参加するよう働きかけています。その効果も出てきており、3年次の4月から全14回行う講義中心のインターシシップの授業には学年の約半数の学生が参加しています。それだけ学生の就職に対する意識が高まってきていると思いますが、夏季休業期間中に5日間以上の就業体験をすることによって単位認定される学生はそれほど多くありません。就職支援センターとしては、さらに多くの

学生にインターシシップに参加して働くイメージをもってもらいたいと考えています」

そう同大学のインターシシップに対する取り組みを説明するのは、就職支援センター長の野中康生氏です。

3つの柱を軸にさまざまな方法で障がい学生の就職活動を支援

当然、就職活動に関するさまざまな機会の提供は障がい学生に対しても同様です。障がい学生の就職支援は大きく分類すると3つの柱で展開されています。まず1つはキャリアガイダンスで、昨年は3年次の5月に開催しました。

「イフから講師を招くとともに、ゲストとしてある特例子会社の人事担当者とその企業に勤務する卒業生を迎えて、障がい者の就職活動のポイントや実際の働き方を伺



いました。障がい者採用の専門家や企業のニーズを知り、また、働くイメージがもてるいい機会になったと思います。さらに2つめの柱として力を注いでいるのが求人情報の提供です。求人情報の提供はこの大学でも実践していることだと思

いますが、本学では全学生が閲覧できる独自の就職ナビに障がい者専用のトピックス欄を設けています。これにより障がい学生が就職活動に必要な情報を収集しやすい仕組みが構築できたと思います」（野中氏）

そして最後の柱となるのが個別対応の充実です。障がい学生の場合、「できること」と「できないこと」を把握したうえでサポートをする必要があるのです。常駐している12名のキャリアコンサルタントがしっかりとヒアリングをした上でアドバイスをしています。特に精神・発達障がいの学生に対しては、本人の承諾を得たうえで学内のカウンセリングセンターと相談内容を共有しながら一人ひとりに合わせた就職支援を行っています。

また、障がい学生の就職活動に対する不安を軽減するための取り組みとして「障がい学生の就職活動

体験記」という冊子を作成しています。ここでは先輩たちの経験談として「番力を入れたこと」「苦労したこと」「支援事業者の活用の仕方」といった就職活動のポイントがまとめられています。

このように関東学院大学ではWebサイト、専門家による個別対応、冊子の配布などさまざまな方法で障がい学生の就職活動を厚く支援しています。

MESSAGE

学生へのメッセージ

自由に広い視点から

多くの企業を知ってもらいたい
大学在籍時の就職活動は、社会人になってからの転職と比較しても、自由に広い視点から多くの業界や企業などを調べ、そして選べる時期です。いうならば自分の人生を決める大事な活動ですから、とにかく自ら積極的に行動していただきたいです。

また、本学では、地域や企業などと「社会連携教育」を推進していますが、教室での学びをさらに深めるためにもインターシシップなど授業以外の場にも積極的に向うくことも重要です。とにかく動いた分だけ企業や多くの人と接点ももてる時期ですから、企業活動や仕事についての見識を深めていただきたいと思います。